

千葉県地球温暖化対策実行計画(素案)からの主な修正箇所

ページ	項目	箇所	修正内容
3	1-1 地球温暖化の現状		第3作業部会報告書の内容を追記しました。
36	7-1 家庭における取組	◆住まいの省エネ	・V2Hの活用について追記しました。 ～太陽光発電設備は、蓄電池を組み合わせることで、災害時や停電時に非常用電源としても活用できます。 <u>なお、電気自動車は住宅用充電設備(V2H)と組み合わせることで、蓄電池として活用することができます。</u>
40	7-1 家庭における取組	◆食品ロス削減	・食品ロス削減と温暖化対策の関係を記載しました。 まだ食べられるのにも関わらず捨ててしまう食品ロスは、もったいないだけでなく、 <u>生産・流通時に消費したエネルギーが無駄になり、廃棄時には焼却処理によりCO₂が発生し、地球温暖化にもつながっています。</u>
41	7-1 家庭における取組	○「3R」の推進	・「3R+Renewable」の趣旨を追記しました。 今までの「大量生産・大量消費・大量廃棄」から、3R(リデュース、リユース、リサイクル)に「再生可能な資源に替える取り組み」を追加した、3R+Renewableを進めていくことが必要です。 <u>再生可能な資源を繰り返し利用することは、石油を原料とする廃プラスチック等の発生抑制や焼却に伴うCO₂排出量を削減するとともに、新たな天然資源の投入量の抑制にもつながります。</u>
45	7-1 家庭における取組	○「3R」の推進	・「3R+Renewable」の趣旨を追記しました。 <u>廃棄物等の発生抑制と循環的な利用により、新たな天然資源の消費を抑制することで環境への負荷が低減できます。リサイクル等、身の回りで実践できることは様々あるため、できることから行動してみましょう。</u>

ページ	項目	箇所	修正内容
47	7-2 事務所・店舗等における取組	◆太陽光発電設備等の設置	<p>・電気自動車の充電機能の活用について追記しました。</p> <p>屋根や駐車場に太陽光発電を設置し自家消費すれば、温暖化対策に加え、電気料金の上昇リスクや災害時の停電等のリスクを低減させることが可能であり、蓄電池や電気自動車の充電機能も活用すれば、発電していない時間帯においても、電気を使用することができます。</p>
47	7-2 事務所・店舗等における取組	◆省エネ型製品の活用等	<p>・業種によりエネルギー使用量の割合が違うことを記載しました。</p> <p>業種により多少異なりますが、事務所・店舗等のエネルギー使用量は、空調・照明・OA機器が約6～8割を占めています。</p>
56	7-4 運輸貨物における取組	◆運輸貨物などの温暖化対策	<p>P46「主な行動計画等の解説」に記載していたグリーン経営認証制度は、運輸業界における制度のため、P56「7-4 運輸貨物における取組」に移動しました。</p>
60	7-5 その他の事業者における取組	◆ブルーカーボン	<p>・アマモの枯れた葉が深海に沈むことで、炭素固定されているものもあることから、追記しました。</p> <p>～、アマモ場が吸収したCO₂は、枯れた葉などが海底や深海に堆積することなどにより、数千年後も炭素が固定されていることが知られています。</p>
67	8 目標達成に向けた県の施策		<p>SDGsの説明を追記しました。</p>
81・82	8-6 施策の実施に関する目標		<p>施策の実施に関する目標に現況値を追加しました。</p>
85	9-1 気候変動影響への適応の考え方	コベネフィット例	<p>・以下のとおり追記しました。</p> <p>自然環境が有する多様な機能を活用したグリーンインフラやEco-DRRの取組の推進</p>
87～91	9-2 気候変動による気象への影響の現状と将来予測		<p>図9-2-1～9・14を、最新のデータに修正しました。</p>
107	9-3 気候変動による分野別影響の現状と将来予測	(6)② 建設業	<p>国の気候変動影響評価報告書を基に、現状の状況を修正しました。</p>
116	9-3 気候変動による分野別影響の現状と将来予測	(8)②	<p>国(気候変動適応センター)と都道府県(地域気候変動適応センター)の役割等がわかりやすくなるよう、図9-4-1を追加しました。</p>